

# 個人サイトのアクセシビリティ確保を目的とした Web コンテンツ制作支援サイトの試作

048125 松本真由美

(指導教員 速水 治夫 教授)

## 1 はじめに

Web アクセシビリティに関する現状・配慮の仕方について様々なガイドラインが提示されているが、提供される情報は一般ユーザにとって専門的で難解な記述であることが多く、未だ一般的に知られていない。アクセシビリティへの配慮や Web 標準の正しい記述法を用いたアクセシブルな個人サイトを増やして行くためには、Web コンテンツ制作者を支援する情報源の整備が不可欠である。したがって、ここでは既存の Web コンテンツ制作支援サイトの問題点を明らかにし、その在り方を検討した上で、検討結果で得た改善案を基に、実際に Web コンテンツ制作支援サイトの一部を試作した。

## 2 Web コンテンツ制作支援サイトの問題と解決策

ホームページ作成方法に関連するキーワード検索で上位表示されるサイトで掲載されている情報の多くが Web 標準に準拠されておらず、アクセシブルでない技法を紹介している。正しい技法を掲載するサイトは検索上位に表示されない、あるいは中級者向けの記述で初心者にとっては難解である。

そこで「Web 標準」と「Web アクセシビリティ」の正しい情報を同時に理解できる初心者向けの Web コンテンツ制作支援サイトを試作した。

## 3 試作コンテンツの概要

従来の支援サイトは「制作」「運営」について説明するものが多いが、アクセシブルな Web コンテンツの実現には「企画・設計」の段階から配慮し、最後に「点検」を行うことが重要となる。したがって本コンテンツでは、Web 標準に準拠した制作手順を PDCA サイクル基軸に掲載した。アクセシビリティ対策法に関しては、JIS X 8341-3 と整合性を取りつつ出来るだけ簡単な表現・内容とし、「特別な配慮」ではなく「あたりまえの配慮」として説明した。

また、サイトのアクセスしたユーザ全員にキーワード「アクセシビリティ」の印象を強く残すため、トップページではページ上部に注意を喚起するバナー配置、おすすめメニューでの上位表示などの誘導設計を行った。各ページ共通で本文の末尾では必ずアクセシビリティについてのポイント解説をしている。

### 3.1 Web 標準に準拠

標準的に使用されている構文や制作手順。現時点では、XHTML1.1 と CSS2.0 を用いて基本構文と視覚表現を完全に切り離して管理することが標準とされている。

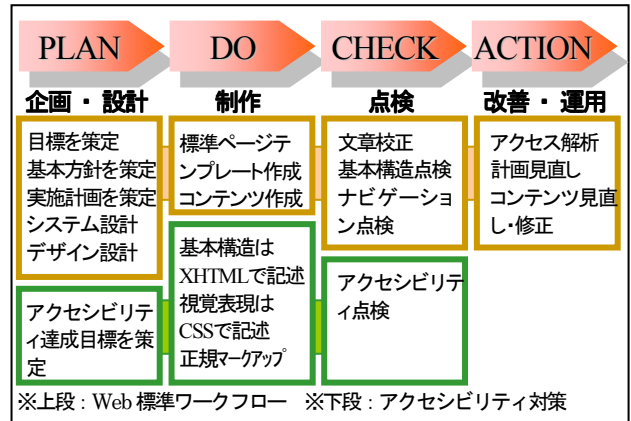


図1 コンテンツ内容

## 4 評価

評価実験協力者は Web コンテンツ制作初心者 11 名、経験者 3 名。実際にコンテンツを閲覧してもらい、アンケートを実施した。試作コンテンツ閲覧前と閲覧後のアクセシビリティへの意識について比較してみると、閲覧前は「理解していない為に実践できない」が 9 割を占めていたが、閲覧後は 2 割に減少し、「理解しているが実践できない」の割合が増加した。評価者からはアクセシビリティとは何なのか理解は出来たが実際に配慮できるか不安。専門用語が多くて難しかったとの声が多く寄せられた。

## 5 おわりに

試作コンテンツの評価結果から、Web アクセシビリティの重要性を一般に広く認知していただく為には、本コンテンツの有効性が高いことが証明された。しかし、理解を広めることは実現したが、実践に行動を移すには至らなかった。今後の課題として、専門的な情報を初心者でも理解できる簡単な言葉に改変していく必要がある。さらに、コンテンツ内容が充実した際には、SEO を活用してアクセスアップ対策を行うなど、インターネット上で初心者にアクセスされやすい環境に位置するように試行する必要があるだろう。

### 参考文献

- [1] Jim Thatcher, Michael R. Burks, Christian Heilmann, Shawn Lawton Henry, Andrew Kirkpatrick, Patrick H. Lauke, Bruce Lawson, Bob Regan, Richard Rutter, Mark Urban, Cynthia Waddell, UAI 研究会 翻訳プロジェクト 訳: Web アクセシビリティ 標準準拠でアクセシブルなサイトを構築/管理するための考え方と実践 毎日コミュニケーションズ(2007.10)
- [2] 萩野達也, 小田実, 鷹野雅弘, 益子貴寛, 佐藤伸哉, 横堀直之, 浅野紀子, 矢野りん, 植木真, 原一浩, A.e.Suck, 鈴木健, 松村慎, 深野晁雄, 中村享介, 田中正裕, 境祐司, 長谷川恭久, 岡本淳: ウェブの仕事力が上がる標準ガイドブック 2 Web デザイン, ワークスコーポレーション(2007.06)